

沖永良部島アーニマガヤトゥール墓の墓室正面構造

Front Face Structure of Animagaya Old Tombs, Okinoerabu Island

宮城幸也*・竹中正巳**

Koya Miyagi, Masami Takenaka

*鹿児島県知名町教育委員会、**鹿児島女子短期大学

沖永良部島知名町に所在するアーニマガヤトゥール墓と喜界島赤連喜界高校南側の古墓群1号墓の墓室正面構造を比較した。規格（大きさ）の面では両者に大きな差異はないが、装飾面では赤連喜界高校南側の古墓群1号墓の装飾は右側のみで非対称であり、左右対称の装飾をもつアーニマガヤトゥール墓とは異なる。現在のところ、アーニマガヤトゥール墓の墓室正面構造と同一の正面構造をもつ古墓は琉球列島内に認められない。

Key words：アーニマガヤトゥール墓、沖永良部島、赤連喜界高校南側の古墓群、喜界島

Animagaya old tombs, Okinoerabu island, Agaren Kikai high school southside old tombs, Kikai island

1. はじめに

鹿児島県大島郡知名町の町指定史跡であるアーニマガヤトゥール墓は、沖永良部島南東部の知名町赤嶺字満がや原に所在し、標高約110mに位置する。琉球石灰岩を掘り込んで墓庭を設けており、岩壁に横穴を掘り墓室としている。墓本体の周囲には、石積み配がされている。沖永良部島の中世～近世にかけての葬墓制文化を総合的に検討する上での重要な史跡である（宮城、2016）。伝承によると、墓の構造は、薩摩侵攻以降に日本式の影響を受けて造られたと言われている。しかし、構造のどの範囲に反映されているかはわかっていない。また、かつて墓室出入口の方形状枠の面に「天保」年号の文字が刻まれていたとの言い伝えも地元にはあったらしい（先田、1999）。しかし、現在では、「天保」年号の文字は確認できない。

アーニマガヤトゥール墓の特徴は、墓室正面が唐破風の意匠と考えられる造りで表現され、且つ石灰岩の岩盤に直接加工されている点である（図1）。このような古墓は、現在の所、沖永良部島内では類例はみられず、筆者が把握している限りでは沖縄諸島でも類例はない。

現在、知名・和泊両町は連携し、沖永良部島の古墓群の国史跡指定を目指す事業を進めている。本事業の2023年度の「古墓調査検討委員会」が2023年11月に開かれ、その中で、喜界島の赤連喜界高校南側の古墓群1号墓に装飾を施した墓正面を持つ古墓があるという情報が示された。

関根（2023）によると、喜界島の赤連喜界高校南側の古墓群1号墓は墓室正面の入口右手に出窓を有し、格子目透

かしの板石が嵌め込まれている。その右には五輪塔が陽刻されるなど、喜界島の古墓の中で突出して凝った造りと言及されている。

今後、沖永良部島における古墓構造を解明していくためには、喜界島例との比較は必要になる。そのため、今回、喜界島赤連喜界高校南側の古墓群1号墓の墓室正面構造の調査を行い、その成果を比較検討し、アーニマガヤトゥール墓の墓室正面構造について、若干の考察を行った。

2. 調査方法

今回、喜界島の赤連喜界高校南側の古墓群1号墓正面入口の出窓の規格をコンベックスで計測し、アーニマガヤトゥール墓の方形状枠と規格（大きさ）の面での比較を行った。

3. 計測・観察結果および若干の考察

赤連喜界高校南側の古墓群1号墓（図2・3）の出窓の規格は、幅約108cm、高さ約55cm、奥行は約16cmである。出窓の下にある連子窓状の枠の規格は、幅約108cm、高さ約70cmである。アーニマガヤトゥール墓の墓室正面（図4）の左側方形状枠の規格は、幅約69cm×高さ約72cm、奥行は約18cmである。その下の長方形状の枠は、幅約77cm、高さ約27cm、奥行約7cmを測る。墓室正面右側の方形状枠の規格は、幅約64cm×高さ約75cm、奥行約24cm。その下の長方形状の枠は、幅約68cm×高さ約30cm、奥行約8cmである。

アーニマガヤトゥール墓と赤連喜界高校南側の古墓群1

号墓を比較したところ、墓室正面構造の規格（大きさ）においては、両古墓とも大きな違いはないことがわかった。しかし、装飾やそれを施している範囲については若干違いがある。アーニマガヤトゥール墓は、墓口の両側に方形状枠と枠中の窪みの中に社寺建築技法と考えられる装飾が施されている。それに対し、赤連喜界高校南側の古墓群1号墓は墓口右側のみに精巧な装飾などが設けられている。墓口に対し、アーニマガヤトゥール墓は左右対称の装飾であるが、赤連喜界高校南側の古墓群1号墓は右側のみの装飾である。装飾の対称・非対称に意味があるのか、琉球列島内での類例を探しながら、この問題について今後も検討を続けていきたい。

参考文献

- 先田光演（1999）「奄美の歴史とシマの民俗」 まろうど社
- 関根達人（2023）「喜界島の古墓」『令和3年度～7年度科学研究費補助金 奄美群島の葬墓制に関する考古学的研究 基盤研究B研究成果報告書 1』pp.8-38
- 知名町教育委員会（2019）「知名町の古墓1」『知名町埋蔵文化財発掘調査報告書 14』 鹿児島県大島郡知名町教育委員会
- 宮城幸也（2016）「沖永良部島知名町のトゥール墓について ―知名町指定史跡を中心として―」『奄美ニューズレター 40』 鹿児島大学

（2023年12月21日 受領／2024年1月11日 受理）



図1 アーニマガヤトゥール墓の全景（沖永良部島知名町）



図2 赤連喜界高校南側の古墓群1号墓（喜界島）



図3 赤連喜界高校南側の古墓群1号墓 出窓付近近景（喜界島）



図4 アーニマガヤトゥール墓の墓室正面構造（沖永良部島知名町）